

<「親子で登る自立の坂道」期：「親が子離れできない」編 - 3 >

対象(時間): 中学・高校生の親(120分程度)

ほどよい距離感って? ~子どもの自立と親の自立~

【ねらい】子どもの自立を適切に支援できるような、親の接し方について考える。

【準備物】学習者：筆記用具

主催者：名札、ワークシート、アンケート用紙、付箋、模造紙、フェルトペン(裏写りしないもの)

時 間	アクティビティの展開例	留 意 点	備 考
:	名札付け(来た順に)	全員が名札をつける。(ニックネーム可)	
(5分)	ファシリテーター(学習支援者) 自己紹介, 主旨・ルール等説明	和やかな雰囲気づくりに配慮する。 写真を撮る場合は, 予め了解を取る。(肖像権)	スケジュールを板書しておく。 ・机は講義形式
(10分)	アイスブレイク(雰囲気づくり) 「似たもの同士に分かれましょう。」 簡単な質問をして「はい」「いいえ」でグループに分かれる。 それぞれのグループにインタビューをしてみる。 グループごとに自己紹介をする。	初対面の人同士の場合, 自由に意見を出し合うためのウォーミングアップとする。 和やかな雰囲気づくりと, スムーズなグループづくりに配慮する。 例)子どもは男子の方がよい。 子どもが自分そっくりだと感じる。 例)男子がよいのはなぜですか。 どんなところが, 自分そっくりだと感じますか。 5~6名のグループに編成する。 (この間にワークシートを配付する。)	・机を撤去 ・グループ数に応じて, 机を配置
(5分)	<思い出しましょう> P2 乳幼児期・小学生期の「こんな子どもだった」「こんな子どもになってほしい」を記入し, 次に「今こんな子どもだ」を記入する。	○小さかった子どもとの関わりを思い出してもらおう。 ○自分の子どもに対する理想と現実を書き出してみても, 自分の子どもに対する見方に気づくきっかけにする。	
(15分)	書いたことをグループ内で発表し合う。	三つの約束(発言の平等, 人の発言を肯定, 秘密の保守), ただし, 言いたくないことは発表しなくてもよい。(パス有り) 子どもとの関わりが多様性に気づき, グループでは多くの気づきになることを実感してもらおう。	
(15分)	<コラム/エピソードを読みましょう> P2,3 コラム/エピソードの読み上げ。 感想をグループ内で出し合う。	○子どもに真剣に向き合う親の姿勢について考えてみる。(子どもが大きくなり, 手が離れるようになって, 心と目は離さないことを実感してもらおう。) コラム/エピソードは時間を見て取捨選択しても良い。	
(50分)	<考えましょう, 出し合しましょう> P4 「今困っていること」を記入。 「親は思春期の子どもにどう関わればよいか」を記入し, グループで話し合い, 模造紙にまとめる。 グループごとに発表し合う。	○日頃, 子どもにどのような期待をし, どんな子育てをしてきたのかをふりかえる。 ○もっとも身近な大人として, 親としての生き方についても考えてみる。 価値観の多様性に気づき, グループでは多くの気づきになることを実感してもらおう。 理想とする大人像について, ランキングしてもよい。	
(15分)	<学習を振り返りましょう> P4 ワークシートへの記入 ファシリテーターの話		
(5分)	終了・片付け アンケート記入	参加者全員で行う。 アンケート記入者から流れ解散	・現状復帰
メモ			